



「サンシャインいわき」が本当の輝きを取りもどす時!! ～魅せます、いわきの今を～

いわき市観光交流課 主幹兼課長補佐 山廻邊 直人

いわき市が受け入れる意義

(一財)自治体国際化協会(クレア)が主催する「海外自治体幹部交流協力セミナー 2016 (ロンドン事務局管内)」の地方交流事業が、1月11日から14日まで福島県いわき市にて行われました。

本セミナーは、海外自治体幹部職員等の訪問を地方自治体が受け入れ、日本の地方自治の現状と課題について意見交換および情報交換を行うことにより、互いの地域の地方自治制度等について理解を深めるとともに、セミナー参加者に対し日本文化等を体験していただくプログラムです。

本セミナー開催時は、東日本大震災から6年を迎えようとしている時期にあり、着実な歩みを進め、震災前の姿を取り戻しつつある本市の復興状況と、一方では、現在でも福島第一原子力発電所事故を起因とする風評に直面している厳しい現状を併せて、参加者全員の肌で感じていただきたいとの思いから、「東日本大震災からのまちづくりについて」というテーマを設定いたしました。

今回、実際にいわき市に来ていただくことで、震災で被災したまちが、「こんなに元気を取り戻している」ということを世界に発信でき、とても有意義であったと感じています。

視察および交流の経過

【受け入れ初日】

まず最初に、①『常磐共同火力株式会社の視察』です。石炭による火力発電所の最新の取り組みや環境への影響等について説明を受けた後、施設内部を視察しましたが、巨大な倉庫に積み上げられた石炭を前に、皆さん驚きの声を挙げていました(本市の小名浜港は、石炭輸入拠点形成する港湾「石炭バルク戦略港湾」に選定されています。)

視察後、②『市長への表敬訪問』と関係職員による③

『本市の行政説明』を行いました。

【一夜明けて】

プログラム2日目は、いわき市をより深く知っていただくため、盛りだくさんのメニューをご用意しました。

まずは、「食」に対するいわき市の取り組みを紹介し、併せてセミナー参加者にいわき産農産物の魅力を味わっていただくため、④『農産物モニタリング検査場の視察』と農業・自然体験型施設である⑤『ワンダーファームでのトマト栽培と加工場の視察』を行いました。

参加者に、いわき産の農産物が厳しい検査を受けて出荷されていることを知っていただいた後は、いわき市の「地の恵み」にあふれたランチビュッフェを楽しんでいただきました。

また、⑥『国宝白水阿弥陀堂の視察』では“WABI-SABI”の世界を感じていただき、⑦『金澤翔子美術館での日本文化体験』では着物の着付け、茶道、書道の体験で日本文化を堪能していただきました。



静寂の白水阿弥陀堂にて

参加者の皆さんは、短い時間でしたが、日本文化に触れることができ、とても満足していただけた様子でした。また、私たちにとっても、今後のインバウンド関連施策を進めるうえで、大いに参考となりました。

この日の最後は、東日本大震災で大きなダメージを受け、再開は無理との声まで聞かれたにもかかわらず、フ



ラガールの全国キャラバンなどを通して、現在では震災前よりもスケールアップしたスパリゾートハワイアンズ（旧常磐ハワイアンセンター）の坂本顧問による⑧『常磐興産の取り組み「炭鉱から観光へ」と題した講演』で、閉山からレジャー産業への大転換を行った創業当時の苦労話を拝聴しました。

この日は歓迎夕食会が催され、大いに盛り上がりました。



金澤翔子美術館にて、関係者全員集合

【津波被災地へ】

いわき市滞在3日目。

⑨『いわき・ら・ら・ミュウ視察』では、震災当時の様子をリアルに再現した東日本大震災記録展等を視察し、その後津波により壊滅的な被害を受けた⑩『豊間・薄磯地区の視察』を行いました。強い風雨の中、現在整備が進められている高台での住宅団地整備の様子や、海岸堤防嵩上げ工事や防災緑地帯整備など、市の担当者から震災当時の状況や復興の進捗状況についての説明を聞くとともに、近くの災害公営住宅では自治会長さんと歓談を行い、被災された皆さんの、地域を思う気持ちに触れることができました。



薄磯地区自治会長さんのお話に関き入る参加者

また、セミナー参加者の方と市職員との間で行われた⑪『意見交換会』では、今回の視察の感想やいわき市の復興状況等について率直な意見交換が行われました。

【気が付けば最終日】

最終日は、小名浜地区にある⑫『ふくしま海洋科学館（アクアマリンふくしま）』の視察です。同館の津波被害の状況から現在までの取り組み等について説明を受けました。津波被害を感じさせず、すっかり元の姿を取り戻した館内の状況を見ていただき、セミナー参加者の皆さんは、多種多様な海洋生物に心を和ませていたようです。

【お別れのとき】

いよいよお別れの時が来ました。

振り返れば、初日の昼食時、参加者の方が薬味の刻みネギを詰まらせ大騒ぎとなって冷や汗をかいたこと、ワンダーファームで皆さんがトマトをおいしそうに頬張る姿、「いわき湯本温泉」で露天風呂を満喫された皆さんからいただいた“ONSEN SAIKO!”の言葉、着物に着替えた艶やかな姿など、様々なことができました。

いわき市の魅力を十分に満喫いただけたかどうかはわかりませんが、JR常磐線泉駅の改札を抜けた後に、振り返って、見送りの手を振る私たち職員の写真を撮り始めた皆さん。あれは単なる記録写真ではなく、今回のセミナーに満足し、もてなす側ともてなされる側の心が通じ合った瞬間を切り取ったものだと思います。

今回、本セミナーの受け入れを終えて、全ての行程において、タイトなスケジュールになってしまったこと、また、意見交換の人数が多すぎたこと等の反省点は多々ありますが、いわき市にとって「外からの目線で見たいわき」を知る良い機会となりました。

これからも、様々な方々と連携することで、視点を変えながら、震災前にも増して「明るく元気なサンシャインいわき」を発信していきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い致します。